日本共産党
池田ファンクラブ・ニュース
あした天気にな～れ
177号
2016年7月
部内資料
発行責任者　太田　勍　(62-5727)
議員連絡先　うすい孝彦　(62-5093)
服部　久子　(62-4357)
編集責任者　山本　久子　(61-1066)

参議院選挙の結果
選挙区 杉尾さん勝利・比例 武田さん議席獲得

7月10日投開票でおこなわれた参議院議員選挙は、野党と市民が力をあわせてたたかう、戦後かつてない選挙となりました。全国32の1人区すべてで野党統一候補が実現し、11の選挙区で激戦を制して自民党候補に勝利したことは、きわめて重要な成果です。

この選挙で私たちは、長野選挙区での杉尾秀哉野党統一候補の勝利と日本共産党の比例選挙での躍進という二つの大目標を掲げてたたかいました。

日本共産党は、比例代表選挙では東京で当選を勝ち取り、改選3議席を6議席へと倍増させ、非改選とあわせて14議席へと前進しました。

池田町では杉尾秀哉327票（当選）、比例代表93票（武田良介当選）と大きな支持をいただくことが出来ました。ご支持をお寄せいただいたみなさんに心から感謝申し上げます。

選挙戦では、安倍首相を先頭に、激しい野党攻撃、日本共産党攻撃がおこなわれました。一国の首相が、日本共産党を名指しして連日攻撃する選挙というのは、かつてない異常なことでした。

長野選挙区は安倍首相が3度も選挙区入りし、激烈な競り合いとなりました。

信濃毎日新聞11日付は「『改憲阻止』野党共闘結実」との見出しを掲げ、野党統一候補の杉尾秀哉氏が「県内76・6％に当たる59市町村でトップだった。衆院小選挙区別得票でも杉尾氏は全て最多」と指摘しました。県内の1～5区の全ての衆院小選挙区で、野党統一候補の得票が自公連合を上回ったとの指摘です。

私たちはこの結果に自信を持ち野党共闘を強めるとともに、日本共産党への支持を増やすために努力していかなくてはと決意しております。

日本共産党池田支部

11日　杉尾・武田新参院議員が決意をこめて握手

自民に過去最高の助成金

自民、公明、おおさか維新の各党に2016年に支給される政党助成金が増額される見通しです。自民党は、175億2700万円で、過去最高額を更新します。

政党助成金の年総額は約320億円。日本共産党は、国民の支持にかかわりなく政党が税金を山分けする政党助成金は、国民の思想・信条を侵し、政党の堕落をもたらすとして一貫して廃止を主張し、受け取りを拒否し、政党助成法廃止法案を提出しています。

コラム 有明

暑い夏の脱水予防、あなたはどうしていますか。最近は様々なスポーツドリンクが販売されていますが、成分の違いを知りたいとの声があり調べてみました。▼一般的なポカリスエットとアクエリアスを比較すると身体に必要な電解質量は同じですが、ナトリウム（塩分）がポカリ1本（500ml）49mg、アクエ34mgとポカリスエットのほうが多く、また炭水化物もふくまれているため、かなり汗をかくような仕事やスポーツ時はポカリの方が良いと言われています。しかし通常はどちらもそれほどの違いはありません。▼もう一つ経口補水液と言われるものがあります。（商品名 OS-1）これは500mlにナトリウム575mgの他にカリウム390mg含まれています。味噌汁1杯とバナナ1本分です。小児の感染性腸炎や下痢・嘔吐・発熱をともなう脱水状態の時は有効です。カリウムが多いため制限が必要な方は注意とのこと。1日に大人は1本、子どもは半分が目安です。▼多量に汗をかくのでなければ、水や麦茶で十分です。脱水時のコーヒーは禁です。

新シリーズ 池田町の歴史探訪

第3回　大峰大カエデの陰に

中島　牛越　邦夫

池田町観光スポットの代表格は、大峰高原の七色大カエデです。毎年大勢の観光客が訪れ、カエデの美しさと高原のさわやかさを堪能しています。しかしこの地がかつて集団開拓地であったことを、知る人は少なくなってしまいました。

大峰開拓に従事し、現在大町在住の伊東四郎さん（87歳）にお話をお聞きしました。

終戦後
集団開拓が進められる

昭和20年終戦を契機として、敗戦時の危急（引揚者救済、失業者対策、食糧確保など）を救うため、国の法律をもって全国で集団開拓が進められました。

北安曇は22ヶ所の開拓組合が作られ入植しました。池田町は2ヶ所、その1つが大峰でした。

昭和21年　入植目標50戸、総面積65町歩で計画。まず20戸ほどで開拓が開始されましたがほとんどが農業未経験でした。

昭和23年25戸で大峰農業協同組合として発足。昭和26～30年、離農者が続き14戸に減少し、昭和40年には、将来に展望を持てず、開拓組合が解散しました。

開拓に従事した伊東四郎さんにお話を聞く

問　入植されたのは何歳の時でしたか。

答　中学2年16歳だった。岐阜市の空襲で焼け出され、軍事工場で働いていた兄と2人で入植。募集は池田町が行っていた。

問　開拓地の状況はどうでしたか。

答　標高千m、最低温度零下20度、降雪量1～1．5m、風が強く厳しい環境だった。最初は峯の所に自分で木を伐り、カヤ葺きの竪穴式住居のようなものに住んだ。その内簡易な小屋が少々下のほうに出来て移った。与えられた土地は急斜面の一面のカヤ場で、機械というものは全く無く、すべて人力で掘り起こさなければならなかった。

問　生活はどうでしたか。

答　水道が入ったのは28年、それまで下の沢まで桶で汲みに行った。電気は24年。食べるものは無く、配給を町まで歩いて受け取りに行ったが、差別感というか何とも嫌な空気だった。それも充分ではなく、わずかなコメにこ糠と塩を入れてすすった。

土地は酸性が強く、作物が取れなかった。そばの種1斗播いて収穫が1斗という状態だった。

問　離農者が多かったのは。

答　肉体を酷使する毎日で体力的に限界だった。栄養失調で肺炎になり、兄も肺病で亡くなった。最低限の惨めな生活だった。今考えても寒気がする。松川の入植者はほとんど成功している。

問　その違いはなんですか。

答　水田が作れない、急斜面で日当たりが悪く強い酸性の土地、機械が無い、そして町の直轄の形であったため、周りの村からの支援や交流がなく孤立していた。このような条件の悪い場所を斡旋した町に大きな責任があると思う。

大峰の開拓は全く無理な計画だったとしか言いようがない。

（大カエデは開拓時すでに大樹であったため、人力で掘り起こすことができず、やむなく畑に残されたのが今日に至っている）

大峰高原の大カエデ

高瀬郷開拓農業協同組合

もう1つの開拓地は、高瀬川氾濫の荒れ地に22年26戸の方が入植した。河原状態の大変な土地だったが、平坦地で水便も良く、ブルトーザー・ガソリンカー・牽引トロッコ等の大型機械で開田事業が出来た。

また、組合には純粋な入植者だけでなく、地元の人も参加し事業主体が会染村当局であり、地域との融和親睦が充分図られた。林中、内鎌、十日市場とそれぞれ地域に和合した。

昭和30年には全開田開畑を完了し、各種資金償還計画を提出することが出来た。各戸配当地1町1反の営農経営に移った。

参考資料　池田町誌